

梅鶯仏教壮年会報

第159号
2019年
9月15日

梅鶯仏壯聞法親睦旅行

来る20日、21日に名古屋別院参拝を中心とする聞法親睦旅行が実施されます。

渥美半島から三重県鳥羽へ伊勢湾をフェリーで一足飛びするという、田中薫氏による斬新な企画により、今年も充実した聞法旅行が期待されます。

主なプログラム

- 本願寺名古屋別院参拝
- 真宗高田派本山専修寺参拝
- エキシブ鳥羽泊

法味

弥陀仏の
み国に行きし
父母(ちちはは)の
み跡したいて
我れも行くなり
《俱会一处》

※信心の因が一つなれば、
結果もまた一つへの道

法輪寺前住職隆法遺作

■本願寺名古屋別院

名古屋別院本堂



西本願寺の属寺院で宗派の別務所を併設する別院等は全国に32あり、名古屋別院はその一つです。蓮如上人の子孫が、室町時代に伊勢の長島に創設した願証寺を起源とします。

その後、「長島の一向一揆」と呼ばれる織田信長との戦い、豊臣時代における尾張清洲での再興、そして徳川時代には名古屋城築城とともに名古屋城下の南寺町(現在の門前町)に移転した。さらにその後、名古屋願証寺が本山の坊舎として名古屋御坊となり、明治9年には「本願寺名古屋別院」と改称され、全国有数の別院として発展してきました。

第2次世界大戦での空襲によつて建物のほとんどが焼失

本堂内陣



復興の記念事業として本堂内外の改修事が施され、エレベーターの設置や外をイス席にするなど、時代に即応した、京都市圏における心聞法道場として備わってきました。

なお、現在名古屋別院には坂田組から桂晃清氏、漢正豪氏、神田恵真氏の三方が別院宗務員として在職されています。

■真宗高田派本山専修寺

真宗高田派本山専修寺



真宗には東本願寺を始め、その一派があり、その一つが真宗高田派で本山市に三重県津市にある専修寺です。

専修寺の本堂であり、御影堂が国宝であるとともに、親鸞聖人の御直筆をはじめ数多くの貴重な法宝物が所蔵されています。

青色の蓮の花は青い光を、黄色のものは黄色の

青色の蓮の花は青い光を、黄色のものは黄色の光を、赤い蓮は赤い光を、そして白い蓮の花は白い光を放つていて、何とも言えないすばらしい香りが漂っていると述べられていきます。

つまりお浄土・仏さんの世界では、青色のものもは青いままで、黄色のものは黄色いままで、赤いものは赤いままで、白いものは白いままで素晴らしい。それぞれのものは、それぞれのままだ素晴は、それぞれのままだ素晴らしいし、互いに調和素晴らしいし、互いに調和素晴しているというとなのですね。

いかにも、
 和風の世間は、
 移り変わりが早くて、
 自分好みの好き嫌いや、
 自分都合で人やものごと
 とを見ようとしてしま
 います。
 ともすれば青い
 らしい光を出さ
 します。黄色い
 いものであつて
 望んだります。



の子の自閉症を治すのが
教育と想つてきた。

そうであれば、目の見
えない子には目を見える

○いのちの輝き

治すのが教育と想つてきたが、そうではなかつた。自閉症の子を自閉症のままに受けとめ、ともに幸せになる道を見つけようとするのが本當ではなかつたのか。

い目の見える子も見えない
輝く世界をもにいのちが
そのように答えを見出さ
れたそうです。

つまり「青色青光」の
仏さまの世界なのです
ね。

そこに本当の私達の求
める世界があるのでしょ